

2025年度 自己点検・自己評価

1. 学校の教育目標

- 1) 人々の生命と個々の人格を尊重し、豊かな人間性を備えている。
- 2) 看護の対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解している。
- 3) 人々の健康と生活を、自然・社会環境とのダイナミックな相互作用の観点から理解している。
- 4) 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人としての倫理観に基づいた行動をとる。
- 5) 健康や障害の状態に応じ、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基礎的能力をもつ。
- 6) 保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力をもつ。
- 7) 看護実践者として国際的視野をもち、医療の最新知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつ。

2. 2025年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 質の高い人材の確保と育成

(1) 推薦・一般入学試験受験者の確保

- ① 高等学校との連携強化と広報活動の推進(県内・県外)
- ② 高等学校への訪問と適切な在校生情報の提供
- ③ 保護者に向けた情報発信
- ④ ホームページ等(動画・SNS)での情報発信とオープンスクール開催の工夫

(2) 国立病院機構及び社会に貢献できる看護実践者の育成

- ① 国立病院機構病院および県内への就職推進・自己にあったキャリア形成
- ② 看護師国家試験の合格率100%を目指す(国家試験対策の構築)
- ③ 実習病院との連携強化(実習指導者研修会の実施)
- ④ 学生一人一人の成長・課題に合わせたきめの細かいタイムリーな指導
- ⑤ 中間・年度末に満足度調査を行い、適時フィードバックし学生満足度の向上を図る

2) 質の高い教育の向上

(1) 心理的安全性を高める

- ① 学生の声に耳を傾け、学生が話しやすい雰囲気づくりに努める
- ② 教員間のアサーティブで建設的な意見交換

(2) 学習・実習環境の充実

- ① カリキュラム評価の実施
- ② 授業および実習評価の活用と向上(アクティブラーニングの評価:講義・演習・実習)
- ③ 学生による卒業時カリキュラム評価(3.4以上)
- ④ 実習指導方法の検討(学生の思考・行動の評価)

3) 看護教員の教育力・マネジメント能力の向上

(1) 看護教員の積極的な能力開発への取り組み

- ① 授業案の検討(講義・演習・実習のつながり)
- ② 研究授業の促進(校内・校外)
- ③ 研究活動の促進(研究発表昨年度以上)
- ④ 看護管理実務研修(臨床管理研修5日以上、2人以上)
- ⑤ 看護教員能力開発プログラム(TNAD)による教員個々のキャリア育成
- ⑥ 教員インターンシップの開催

- 4) 学生が主体的に考え、判断し、行動できる基礎的能力の育成
- (1) 社会人基礎力の育成
 - ① 学生に役割を付与し、履行できるように支援する
 - ② 1年次から毎年自己評価(自己の成長を確認)
 - (2) 豊かな人間性と高い倫理観の育成
 - ① 学生が自ら考え、感じ、発言および行動できるように支援する
講義・演習・実習・学生生活
 - ② 倫理的視点に基づいた学生指導(倫理観の醸成)
- 5) 将来を見据えた学校の在り方と組織の活性化・効率化
- (1) 附属養成所の運営の在り方を検討
 - ① 学校運営状況の評価 学生の確保と学校の存続について
 - (2) 業務の効率化と健全な勤務環境の改善
 - ① 教員・教務助手・事務助手の業務の効率化のための調整
 - ② 計画的な業務の遂行
 - ③ ワークライフバランスの推進

評価(4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切)

I. 教育理念・目標	
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特徴が明確になっているか)	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
平均	4.0

II 学校運営	
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4

6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
平均	4.0

Ⅲ 教育活動	
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での位置づけはあるか	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	3
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4
平均	3.9

IV 学修成果	
1. 就職率の向上が図られているか	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4
3. 退学率の低減が図られているか	3
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4
平均	3.8

V 学生支援	
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2. 学生相談体系的に関する体制は整備されているか	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4
7. 保護者と適切に連携しているか	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	4
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
平均	4.0

VI 教育環境	
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3. 防災に対する体制は整備されているか	4
平均	4.0

VII 学生の受け入れ募集	
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4
平均	4.0

VIII 財務	
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4
平均	4.0

IX 法令等の遵守	
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4
平均	4.0

X 社会貢献・地域貢献	
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
平均	3.6

XI 国際交流（必要性に応じて）	
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
平均	2.5

1. 総評

自己点検・自己評価結果から見ると、早急に解決しなければならない重要課題は認められず、2025年度の本校の教育・運営・組織等に関しては概ね適切と評価できます。

2. 各項目に対する所見及び意見

1) 「2025年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画」について

5つの重要課題による項目設定は適切です。特に「高校との連携や情報発信」は社会的状況に沿っています。「看護師国家試験合格率の維持」も本校の質の維持に機能しています。また、最近の学生の実態に応じた「アサーティブ面での指導の改善」も大事です。さらに「社会人基礎力や豊かな人間性、倫理観」等の重視も適切と考えます。なお、教職員及び学生のウェルビーイングについても今後とも努力が求められます。

2) 項目別評価結果について

① 教育理念・目標

看護大学への進学生が増加すること踏まえ、専門実践教育訓練講座の開始や入学後も学生の状況に応じた保護者との相談体制の整備などは適切です。

② 学校運営

教職員の勤務状況の改善、社会的コンプライアンスの確立などへの努力は評価できますが、より教職員のウェルビーイングの向上について、検討や協議を継続してください。

③ 教育活動

カリキュラムに関しては幅広く内容を充実させるための努力が認められます。講師の数も多いので指導方法についての共通理解や統一化を図るのはなかなか難しい面もありますが、積極的な情報交換を行うことで、さらに学生のニーズに合うように努めて下さい。

④ 学修成果

国試合格率 100%（第 114 回）は全国平均を上回り立派です。そのことを学生が誇りに思えるようにしたいと思います。退学者については昨今の社会状況から見ても致し方ない面があります。教職員の努力はよく感じられます。

⑤ 学生支援

学生支援については努力されていると思います。最近の学生の状況を見ても本校だけでなく多くの学校（大学も含む）で、共感的な理解と寄り添う支援を重視する傾向が見られます。以前に比べても「褒めて励ます」ことが求められる時代になったと思います。

⑥ 教育環境

この点についても努力されているとは思いますが、PCをはじめとした ICT 環境の充実は必須です。予算的な面などからも大変でしょうが、今後とも重要な課題と思われる。

⑦ 学生の受け入れ募集

高校卒業生数の減少の度合いが著しい現状では、なかなか応募者を増やすのは難しいといわざるを得ませんが、本校の優れた点をよりアピールする活動を期待します。

⑧ 財務

母体病院の経営が黒字である面は安心できる要素ではありますが外部からの補助金の獲得は重要であり、それに伴う努力は評価できます。引き続きがんばってください。

⑨ 法令等の遵守

全般的に見て法令の遵守についてはきちんとなされていると考えます。但し情報セキュリティの管理保持は非常に重要であり、今後も十分に気をつけてください。

⑩ 社会貢献・地域貢献

実習を通して看護師の社会貢献の重要性に気づいたという学生の感想がありました。また、そうした面で活躍している看護師の実例などに感激している学生もいました。

⑪ 国際交流

留学生の入学は難しい差がありますが、外国籍の学生も加わり始めています。基本的な日本語教育の場なども作って上げられると良いかもしれません。

3. 総括的な感想等

* アドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーの両面から期待される基準を達成できたのではないかと思います。ディプロマ・ポリシーの点では卒業生が各医療機関に入職後どのような活躍をできているかで評価されるので、フォローもがんばってください。また、それが在校生へのキャリア支援の資料ともなると思います。

* 県内でも大学の看護学科の設置が増えています。但し、大学と養成所の目的やカリキュラムの内容は異なります。その点を入学にあたってよく説明され、養成所としての専門学校の良いさをアピールしていただくと良いと思います。特に、大学でも国家試験合格率100%は達成できていないところも多くあります。本校の内容の充実度を広く知っていただくことは重要と思います。

* 教育に関して ICT 技術の活用による DX への対応は、社会状況の変化の中で必須だと思います。私自身も授業の中でネット検索はもちろん生成 AI を活用しました。そのことによって「人間だけができる面は何か」を学生に自己を振り返って考えさせてきました。このことは学生の感想を見ても有意義だったと思います。医療についてもロボットの役割は増大します。そうした社会環境の変化に対応した教育が必要だと思います。また、それに応じた施設整備などにもご尽力ください。

* 時代の変化に伴って、学生の退学や進路変更が生じるのは致し方ないことだと思います。その中で、過年度の入学生で休学を経て進級できている学生が複数にいることは学校の努力の賜物だと思います。数字も大事ですが、それを基準にするのではなく、一人一人に応じた対応を今後も続けてください。

* 教職員の方々には本当にお疲れ様です。これからの社会ではウェルビーイングが一層重視されます。心身ともに健康に留意されることを願います。

I 教育理念・目標

高崎看護学校の特色である看護専門職として実践者を育成すること。地域及び国立病院機構等社会のニーズに合わせた看護の提供が具体的にできるよう、入学当初から教育している。学生や保護者にその必要性を明文化しながら説明し、3年間を通して学生指導を行っていること等、きめの細かい教育は看護大学との違いを明確にできていると考えます。看護実践者を育成する役割と特徴が表れています。卒業生の80%が群馬県内の病院へ就職し、なおそれを維持している状況は地域に貢献されていると評価できます。社会人の入学者を推奨するため専門実践教育訓練講座を2025年度入学生より運用を開始したことに期待ができます。教育理念の「主体性 判断力 人間性」は社会に出た際に必要とされる重要な要素と痛感します。

II 学校運営

厳しい経営状況の中、質の高い教育が実践できるよう人材の確保・育成・教育の質の向上を重要課題としていることは、運営方針が明確であると評価できます。2024年度から群馬県、地域医療介護総合確保事業による看護師等養成所運営事業からの補助金を得られ、教員の皆様方がご多忙の中努力されていることがうかがわれます。またそれを維持継続していくことを切望いたします。業務の効率化のため具体的な計画立案と実施を課題として挙げていることも評価できる項目です。

III 教育活動

評価項目がほぼ4の「適切」となっており、学校全体の教員が力を注いでいることがうかがわれます。キャリア教育では、臨床の専門看護師や認定看護師等に講義を依頼し実践的な職業教育が行われ、附属の看護学校という利点が大いに利用されており学生に貢献されています。関連分野における実践的な職業教育では、県内の機構病院、訪問看護ステーション、保育園、老人福祉施設など母体病院以外での実習施設の確保にも教員のご尽力がうかがえます。豊かな実習環境のもと実践的な職業教育ができるように体系的に看護師国家資格取得に向けた一年時よりの継続的な支援も、必要な科目や単位を位置づけ専修学校としての特徴と捉えることができます。国家試験合格率は100%をキープしていることにも表れています。

IV 学修成果

100%の合格は立派な成果と考えます。毎年、全国平均よりも高い合格率を出し、学校職員全体の努力のたまものと思います。今後も継続をお願いします。退学率の低減は図られており、学校の教育目標・理念のもと教員のきめの細かい教育の成果と考えます。近年では、学校のオープンキャンパスに高校の一年時から参加したり、また親子で参加したりするこ

ともあり、それらの過程を経て専修学校に入学する学生でも退学に至る場合があると聞いています。そして、中には親の勧めなどが多く、看護師になりたいという明確な目標を持って入学する割合は少なくなっているとも聞きます。評価の中でも重要な項目になっているようですし、入学した学生を看護師に育成するという専修学校の使命はありますが、入学後の進路変更は、やむを得ない現状と考えます。在校生への影響も少なくないと思われ、キャリアについて、専門・認定看護師の話聞く機会があるとの事ですが、入学後の早い段階から各分野で活躍している卒業生の動向や、活躍内容まで範囲を広げ聞くチャンスがあると良いと考えます。評価項目4の卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているかについて、2019年度の調査とありますが、コロナ禍以前の調査にて新たなデータが必要と考えます。本校同窓会では、連絡網の確認が取れていますので、いつでも協力の依頼をいただきたいと思えます。

V 学生支援

一年時より、進学についてのガイダンスや就職を見据えて学習に専念できるような体制を取っていると考えます。国立病院機構の特徴を生かし、助産学校や急性期から慢性期、精神や小児など幅広い就職先があることも強みを生かせることです。学生に対する経済的支援では、各種奨学金制度のお知らせや、職業実践専門課程認定校となったのちに、社会人経験者にも手厚い支援があり、保護者との連携も丁寧で、学校の特徴が表れています。看護師は就職後も専門職業人として、日々の学習や研究も必須としている中、学校図書館を開放して頂くことはありがたい対応と思えます。ホームカミングデイの開催も対象者から好評を得ています。社会人となり、経験を積んでからも自己のキャリア形成にて悩むことがあり、母校に来校できる環境は、卒業生に対する重要な支援体制といえます。

VI 教育環境

厳しい財政の中、すべての教育機関で抱えている問題点ですが、学校関係者のご尽力により学習環境を整える努力をされていると感じます。インターシップへの参加を勧めたり、webによる就職説明会へ全員が参加できるように環境を整備したり、など多岐にわたり支援していることがうかがえます。災害訓練では母体病院の特徴を生かした内容となっていると感じました。

VII 学生の受け入れ募集

学生の受け入れは少子化の中、すべての教育機関の問題であり、学校運営として重要な項目となっています。指定校の考え方の見直しや、県外へ範囲の拡大などは、前年度の実績から分析し効果が表れると期待します。オープンスクールや受験の日数を増やし、また広報活動の結果、受験者数の増加の成果も出ており活動は高い評価となります。学納金のことは、学生や保護者にとって進学や将来を考えるうえで重要な項目です。学費について、当校を受験した学生の保護者から、学費が魅力だったと聞いたことがあります。看護大学との差異化を図るためにも現在の金額を維持して頂きたいと思えます。課題として挙げている「受験生の確保は、卒業後の就職やキャリア支援を踏まえた魅力を伝える」は、本校の強みと期待できます。

VIII 財務

母体病院の経営が安定しており、病院職員のご尽力の賜物と思います。昨年度から看護師養成所運営事業補助金を獲得し、また今後は、高崎市長及び医務総務課に補助金の依頼など運営資金について先を見据えた戦略が立てられていることがうかがわれます。職員や学生の経費削減の取り組みがなされていますし、社会情勢から今を生きる若者は幼少時より節約が身についていると聞きますが、それにより学校生活が窮屈にならないようにご配慮をお願いしたいところです。

IX 法令遵守

感染対策、健康管理など適正に行われていると考えます。医療に携わる将来を見据え、情報倫理に関する教育は入学時より実践されていると評価できます。様々な情報セキュリティが必要な中、学生指導については多大な労力が必要と考えますが徹底をお願いします。各学年の担任が3名の体制となり、学生や保護者に対し細やかな対応がなされていると期待します。

X 社会貢献・地域貢献

学生ボランティア活動は、母体病院や実習施設地域への直接的な貢献で、学生の成功体験につながると考えます。教員もご多忙の中、実習指導者講習会の講師やアドバイザーの活動などに協力され、今後に期待できると思われまます。

XI 国際交流

機会があれば積極的に対応できるとよいと思います。海外から避難されている、学生と同年代の方々の受け入れなど今後検討していく内容と思います。